



「二分脊椎勉強会」がスタート

～患者さんとの知識・情報の交換の場～

中央病院では、1970 年の開院以来、新生児科、脳神経外科、小児外科、整形外科、小児科などの診療科が二分脊椎の治療を担当してきました。現在、二分脊椎の新生児は入院しませんが、新生児期や乳児期の治療を終えた子どもや成人の患者さんが通院や入院で中央病院を利用されています。治療を継続して必要とする患者さんもいます。私は、「患者さんは自身の自律のために病気を理解する必要がある」と考えていました。そんな折りに、「ご意見箱」に「患者対象の二分脊椎勉強会希望」という投書をいただきました。これを受け、病院の賛同を得て、看護部の協力により「二分脊椎勉強会」を開催することになりました。

二分脊椎は神経管閉鎖不全と呼ばれる奇形のひとつで、開放性二分脊椎と潜在性二分脊椎があり、前者は脊髄髄膜瘤（または脊髄披裂）と呼ばれています。後者では脊髄脂肪腫という病態が多いです。二分脊椎は、妊娠早期に脊髄や脳が形成される時期の異常で、脊髄髄膜瘤は受精後およそ 1 ヶ月までに、脊髄脂肪腫はおよそ 2 ヶ月までにおこります。症状は脊髄や脳の形成不全などによるもので、歩行障害や褥瘡などの下肢運動感覚障害、尿便失禁などの膀胱直腸障害、知能指数で表現される知的障害、脊柱変形などがあります。このような重複障害にもかかわらず、社会生活を営む能力を持つ患者さんが多いことが二分脊椎の特徴とされています。開放性二分脊椎は、脊髄だけでなく水頭症など脳の異常を伴うことが多い二分脊椎で、生まれた時に背中の中腰あたりに脊髄の一部が皮膚に覆われずに露出しています。



<勉強会の風景>

ここからの髄液漏れは髄膜炎の原因となるので新生児期から治療が必要となります。潜在性二分脊椎より重い病気で、膀胱直腸障害による失禁や便秘の治療、腎機能障害の予防、下肢運動障害の治療、水頭症治療などで定期的な通院が必要となる患者さんが多いのが特徴です。また、水頭症は突然に悪化することがあり、忘れてはいけない病態です。

潜在性二分脊椎は背部の皮膚に皮下脂肪腫、多毛、血管腫などを伴うことが多く、この皮膚の異常をきっかけに MRI などの検査で脊髄の異常が診断されます。開放性二分脊椎と同じく膀胱直腸障害や下肢運動障害の治療が必要ですが、水頭症を伴うことは少ないです。そのため排尿障害や足部運動障害の治療や進行防止が、診療の中心となります。（次項へ）

■中央病院の理念と基本方針

私たちは成長や発達に支援を必要とする方々に、より良い医療を提供するように努めます。

- 1 胎児期から成人までを対象とし、患者さんの目線に立ったやさしく安心できる医療を行います。
- 2 心とからだの成長・発達に影響する子どもの疾患を総合的に診断し良質な医療を専門的に提供します。
- 3 患者さんが自立した生活ができるよう、在宅支援や地域との医療連携を推進します。
- 4 成長・発達に影響する病気の原因追究および治療法の開発を発達障害研究所やこばと学園と協力して進めます。

二分脊椎では成長や日々の活動により下肢や腰の痛み、歩行能力の悪化、排尿障害の悪化など、生活の質(QOL)が低下することがあり、脊髄癒着(脊髄係留)が原因のひとつと考えられています。しかし、成長期から成人期に生じる様々な問題をどのように解決するこ

とがより良いのか、明確な答えは存在しません。この勉強会を通して、患者さんと医療者との間で情報や知識を交換することで答えを探し続けていきたいと考えています。

(脳神経外科 長坂昌登)

「第3回あいち小児在宅医療講演会」が開催



<計 310 名が参加>

愛知県心身障害者コロニーと名古屋大学医学部障害児(者)医療学寄附講座の共催で、小児期発症の重度障害児(者)の在宅医療体制の充実を図ることを目的に、平成24年度から「あいち小児在宅医療研究会」を開催しています。

メインテーマは、第1回研究会が「NICUからの在宅支援」、第2回研究会は「ライフステージを通じた医療連携」でした。第3回の今回は、「小児在宅に必要な支援体制を考える」をテーマとして、平成26年12月7日に名古屋大学医学部附属病院講堂にて開かれました。参加者総数は310人でした。内訳は訪問看護ステーションに所属する看護師・療法士と病院に所属する看護師・療法士・ソーシャルワーカーがそれぞれ100名強と多数を占め、患者を在宅へ送り出す側と在宅の現場で支える側の双方の高い関心が伺えました。その

他、医師・歯科医師(病院勤務および開業)、福祉施設・教育機関・保健所・行政機関などに所属する、看護師、保健師、介護職、療法士、保育士、教員、ケースワーカー、行政関係者などさまざまな職種の方にご参加いただきました。県外からも40人以上の参加がありました。

基調講演は、社会福祉法人旭川荘理事長の末光茂先生より「重症心身障害「地域包括ケア」の愛知モデルへの期待～後が先になるチャンス～」として、重症心身障害児医療福祉の歴史、重症心身障害児(者)を守る会が果たしてきた役割、在宅支援の歴史と課題、地域移行の前提として在宅・地域支援を充実させることの必要性などについてお話を伺いました。続くシンポジウム「愛知県のレスパイトの現状と課題」では、特定非営利活動法人ふれ愛名古屋理事長の鈴木由夫氏より「重症心身障害児を対象とした児童デイサービス」、あいち診療会常務理事の藤村淳子氏より「重症心身障害児(者)の日中一時支援サービスの歩みとこれから」、大同病院副院長の水野美穂子氏より「小児在宅医療を支えるための地域の中核病院の役割」、愛知県心身障害者コロニー中央病院看護師長の伊藤一美氏より「コロニー中央病院における取り組み」として、それぞれの活動が紹介されました。質疑応答では多くの参加者が発言され、シンポジストと活発な討議がなされました。

第4回研究会は平成27年12月20日を予定しています。小児在宅医療に関わる皆様のご参加をお待ちしております。

(小児神経科 丸山幸一)



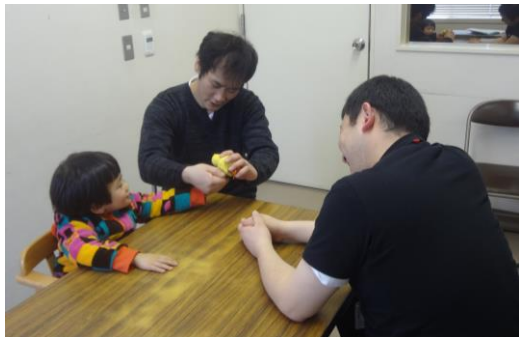
<シンポジウム風景>

ひとびと紹介 4

言語聴覚部門 (Speech-Language-Hearing Therapy)

“他者への意識や共感性・日常生活での関わり”を重視

言語聴覚部門では、コミュニケーションに関する困難をお持ちの方に対する評価、相談、訓練や、摂食嚥下障害の方の評価・訓練（作業療法士との協働）等を行っております。その中でも、今回はコミュニケーションに関する訓練（一般的に言語訓練と呼ばれるもの）についてお話しします。



<日常訓練の様子>

ご家族の方々にも主体的に参加して頂くことで、ご家庭で自信をもってお子様に関わっていただけることを目指しています。

現在、当院所属の言語聴覚士が1名しかおらず、当部門は慢性的なマンパワー不足にあります。相談をしたくても待つ期間が長い等ご不便をおかけしておりますが、少しでも多くの患者様の支援ができるよう、日々の業務を工夫しながらこれからも臨床に励んでいきます。

(ST 加藤智浩)

当院の言語訓練では、「他者への意識や共感性」と「日常生活での関わり」を重視して臨床を行っています。ことばを含めたコミュニケーションの力を伸ばす為には、他者へ伝えたいという思いや必要性を感じることや、日常生活において継続して意味のあるコミュニケーションを図っていくことが重要と考えています。このような考えの下、当院の言語訓練では、保護者への指導、相談、アドバイスに重点を置いています。同伴した保護者への説明を丁寧に行うだけでなく、時には保護者の方々にも訓練に参加して頂き、具体的な関わり方等をお伝えしています。



委員会の お仕事

<中央病院の声を届けます>

広報委員会では文字通り中央病院における広報を担当しています。主な活動は中央病院だよりの編集、病院ホームページの管理、中央病院年報の作成、パンフレット等各種配布物の作成などです。中央病院だよりの編集から各種研修会情報、ちょっとした小ネタまで年3回（2月、6月、10月）作成させていただき、皆様のご協力により今回で第27号となりました。また病院ホームページは2002年に開設し、今年で12年となり、多くの方に閲覧いただいております。手作りのページであるため見にくい点が多いとは思いますが、その反面機械的でない温かいホームページを目指しています。そして病院年報では中央病院の詳細データの統計処理、特集などで現在のトピックを掲載、各種委員会、職員の業績などを細かく掲載しています。



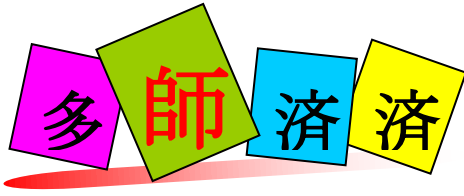
広報委員会

広報委員会では皆様に少しでも中央病院のことを知っていただくため、これからもさらに多くの情報を発信していきたいと考えています。また掲載したい情報があれば、どんな小さなことでも構いませんので広報委員までお知らせください。（広報委員長 加藤 篤）



<病院だよりの年報・HP>





小児外科医長 毛利純子

私は奈良の田舎ですくすく育ち、大学は奈良医大でなんとか卒業できました。大人になるとそのように振り返る人も多いと思いますが、当時は不真面目な学生で、バレーボール部と、レンタルビデオ屋のバイトと、バイト代で行くライブに夢中でした。

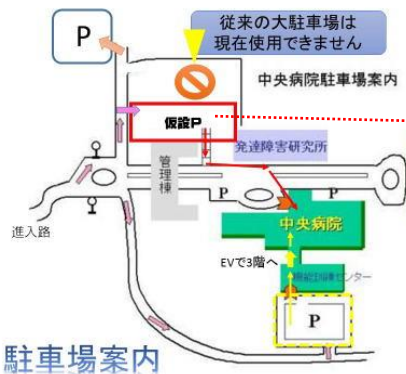
また、小さい頃から父が主に仕事でインドによく行っていたこともあり、休みとお金があればバックパッカーとなり各地に行きました。一人旅も結構しました。インド、ネパール、タイ、ベトナム、アメリカ、台湾、エジプトくらいでしょうか。一番好きな土地はインドのレー（Leh）で、ラダック地方（ヒマラヤ地方）の標高 3650m 程度の高地です。ほとんど樹木の生えていない山々と壮大な景色となんだか日本人的なあったかい人々がいます。この街には 3 回行っています。

最後に行った大学卒業間際の卒業旅行の一人旅で、久しぶりにあった現地の知り合いが赤ちゃんを産んでいて、赤ちゃんが鎖肛（直腸肛門奇形）なの、とお尻を見せてくれました。手術はもう少し大きくなったら車で数日かかる病院に行かなきゃいけないとのこと。その時には私は小児外科をすると決めていたので、なんだか不思議なような、でも病気のことを答えてあげられず申し訳ないような悔しいような感覚だったことを今でも憶えています。

私は小児外科をさせてもらっていることも、コロニーで働かせてもらっていることもラッキーだと感謝しています。けれどまだまだ若輩者、今後ともよろしく願います。

～問診票～

- 出身地はどこですか？
奈良県生駒市
- コロニー在籍何年ですか？
9年、自分でもびっくりです。
- 趣味は？
ランニングとライブ&フェス参加。ライブ映像鑑賞。
- 血液型は？
周りの皆さんにうなずかれる B 型です。
- 猫と犬どっちが好きですか？
犬です。義実家には名犬あいちちゃんがあります。
- マイブームは？
マッサン（NHK 朝ドラ）
この 15 分が結構楽しい。
- 最近、気になるニュースは？
原発再稼働。
- コロニーで好きな所は？
やっぱりスタッフ。持久力と包容力があり、一緒に仕事をしていてこれほど楽しい病院はないと思います。



<障がい者用駐車スペース>

ご迷惑をおかけします。

現在、病院大駐車場は病院建て替え工事のため駐車することができません。
その代わりとして仮設駐車場（左図参照）をご利用ください。来院の皆様には大変ご迷惑をおかけして申し訳ありません。幅の広い障がい者用駐車スペースも用意してあります。

